

モーリシャス豆知識・小話 第27号

2019年7月
在モーリシャス日本国大使館

(1) モーリシャスのフェミニズム

最近、当地の新聞でフェミニズムの記事が載っていました。

私の感じでは、これまで回ってきたアフリカの国々ではどこも女性がとても生き生きしていた気がします。そもそもフェミニズムとはなんぞやとの小難しい話は別にして、フェミニズムが体現すべき状況がアフリカでは先進国よりも一足早くに出現しているのではないかと、思えてなりません。西アフリカなどではまさに肝っ玉母さんという感じの人が多く、家庭でも職場でも大活躍です。国会議員の数も男女比率でいけばおそらく北欧並みかそれ以上なのではないでしょうか。逆に男はと言えば、道端でのんびりタバコを吹かしたり、賭け事に興じたりする、いわゆる怠け者のイメージだったりして（笑）。

さてモーリシャスですが、国民議会の女性の数は、日本ほどではないですが、決して多くはなさそうです（議員定数70名のうち、女性は議長1名、閣僚2名を含め総勢8名）。また政府機関の女性比率は3.9%だとか。ただ、各省庁でトップの事務次官を務めている女性も普通にいます。民間セクターで働く女性の比率は32.2%だそうです。彼女らは年齢を問わず本当に魅力的な人が多いですね。インド系だとサリーの裾をなびかせながら颯爽と歩き、てきぱきと仕事を片付けていくイメージです。

それでもまだいろいろと課題はあるのでしょう。先日の新聞でもいかに女性の活用を図っていくか、との議論が載っていました。家庭内暴力やあるいはこれまでの因習などで女性が虐げられている例も結構あるようです。

なお、当館でも女性パワーは絶大で、彼女たちの活躍無しには館務も成り立ちません。しなやかな強さを持った女性がきつとこの国を更に発展させるのだらうなと思います。是非日本も、もっともっと女性の活躍の場が広がってほしいものです。

（２）島嶼国競技会の開催

先週、周辺のインド洋島嶼国を集めた競技会（Jeux des Iles）の火ぶたが切って落とされました。いわばこの地域のミニオリンピックといえます。中国の支援で建設中のメインスタジアムは、１９日の開会式に間に合わなかったようですが、モーリシャスやモルディブの大統領も観戦に訪れていたようです。

ところで、開会式の日、我がカウンターパートたる各省庁の人間は午後２時になったら一斉退庁したようです。皆揃って開会式に動員されたのかと思いきや、この競技会のせいで交通渋滞が発生するから早めに帰るため、とのこと！ちょっと啞然とするような説明でした。

まあ、それはさておき、モーリシャスのスポーツのレベルはどれくらいなのでしょうね。もちろん総人口も少ないし、各スポーツ層も決して厚くはないでしょうが、当館が共催する日本武道の大会を見ていると、結構な数の人たち、それも各年齢層の人たちがスポーツに親しんでいる姿がうかがえます。

来年２０２０年は東京オリンピック・パラリンピック競技大会の年。是非モーリシャス代表団にも日本で活躍していただきたいと思います。日本は各国オリンピック選手団を受け入れるにあたり、各地の地方自治体で各国選手が事前キャンプしたり事後交流をはかってもらうべくホストタウン構想を推進しています。

若干フライング気味の公表ですが、我がモーリシャスについては現在、当館より静岡市に内々に働きかけた結果、モーリシャス代表団受入れのためのホストタウン登録協議が行われているところです。モーリシャス選手団には、富士山の雄大な景色を眺めつつ、万全の準備を整えてオリンピックでも好成績を収めてほしいと願っています。